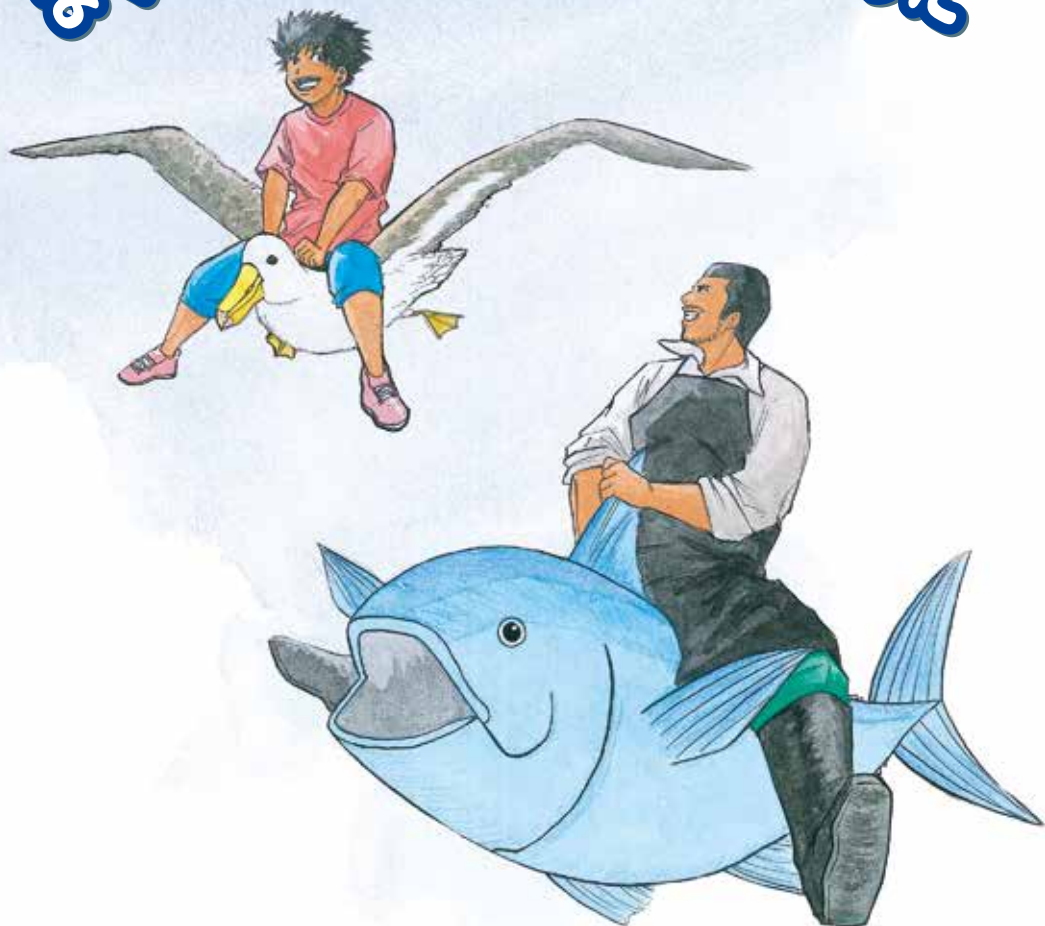


—日本のサメ・海鳥国内行動計画のよりよい理解をめざして—

まぐろ漁業と海鳥の未来のために

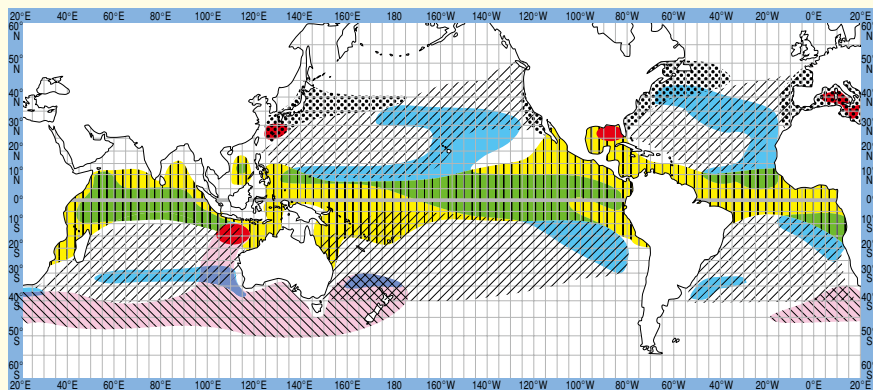


 (社)自然資源保全協会

画：中馬 孝博 監修：サメ・海鳥検討協議会

■ マグロ類の主な分布図

マグロは世界中に分布しており国際的／地域的管理が必要です。



クロマグロ

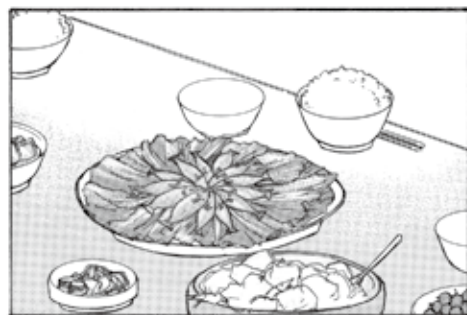
ミナミマグロ

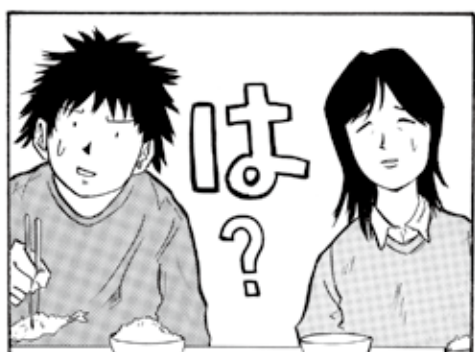
ビンナガ

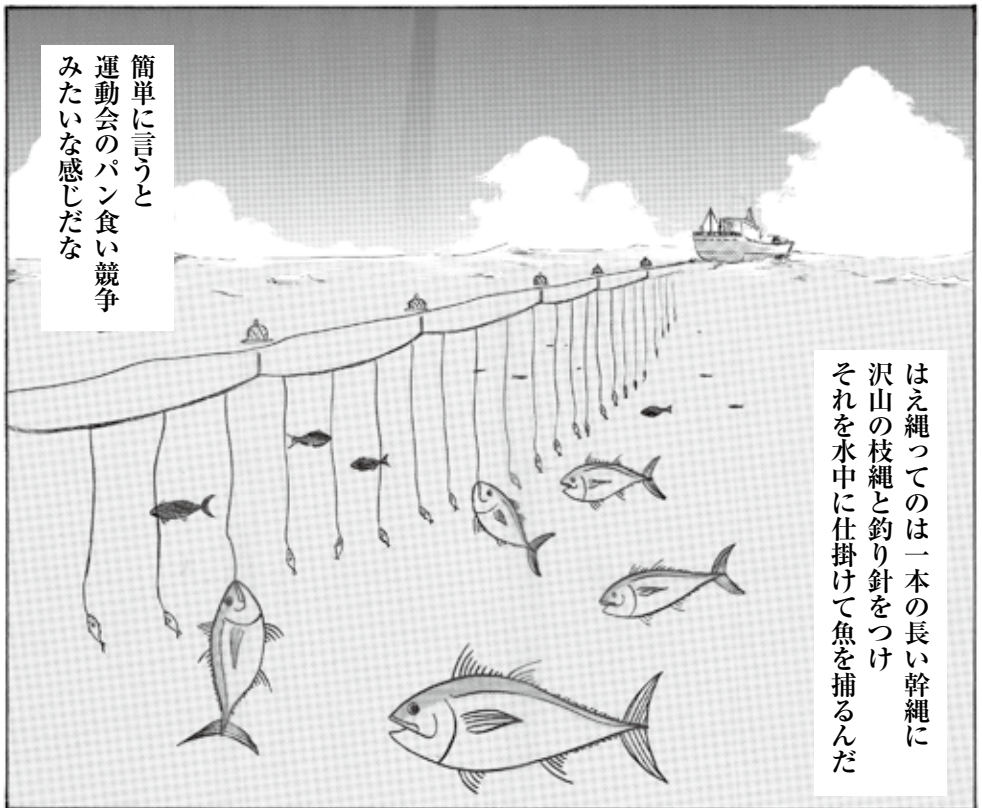
メバチ

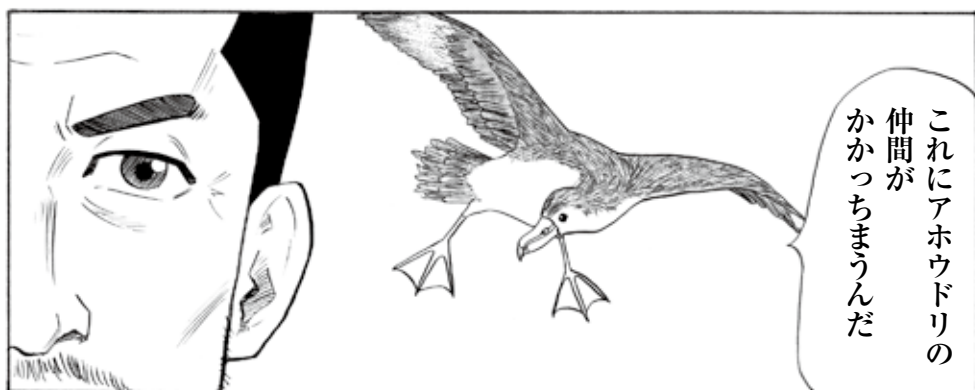
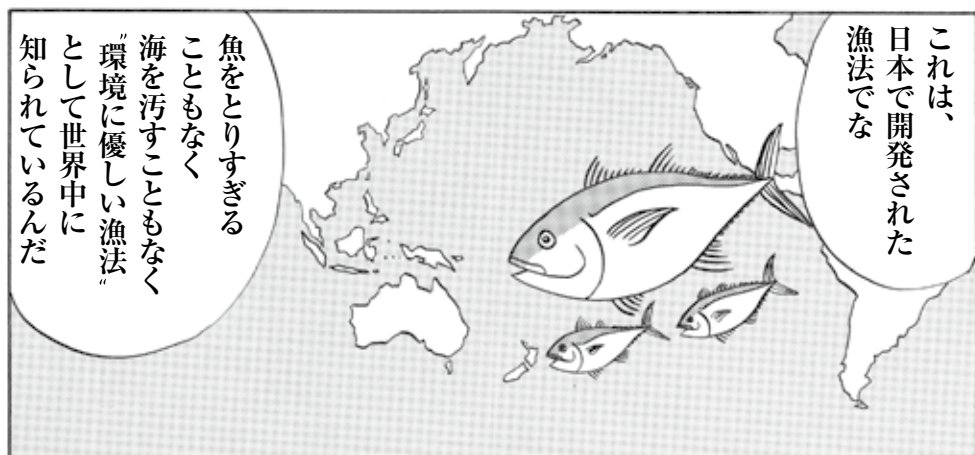
キハダ

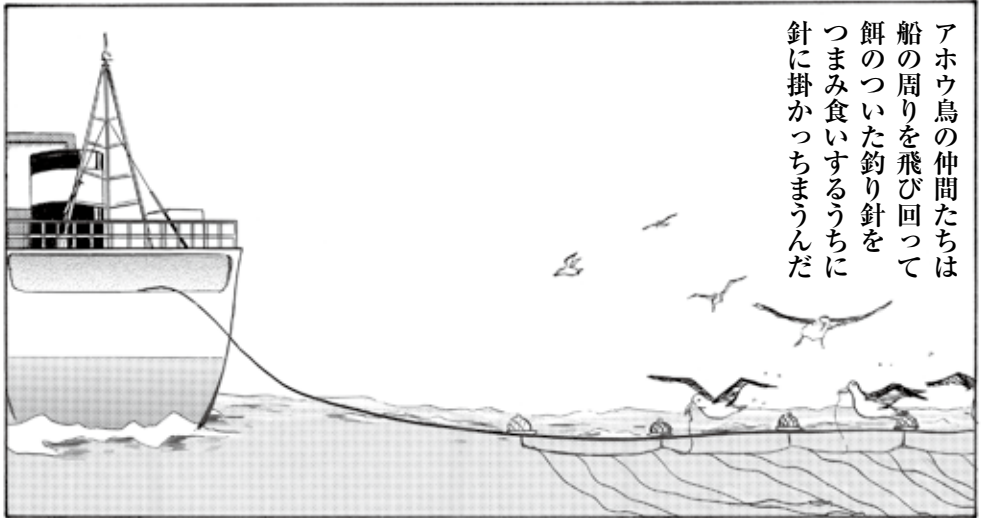
クロマグロ、ミナミマグロの産卵域



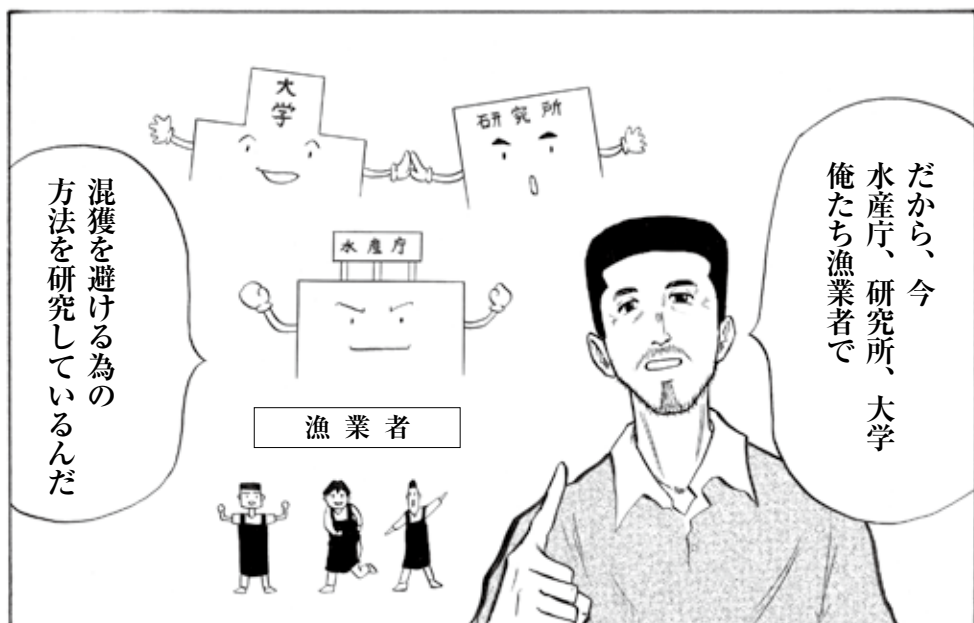












一つは、
トリポールと
言ってな

漁船の船尾に取り付けた
長い棒の先から鳥おどしテープや
吹き流しを付けたロープを曳航し

従来の漁船

トリポール使用

鳥を餌に近付けないようにするもの

アホウ鳥の仲間は
翼を広げると
2メートル以上ある
大きな鳥でな、

へたなんです

細かい方向転換や
空中静止が
苦手なんだ

このトリポール
があると

餌をとる為の
低空飛行が
できない

つまり
針に
かからない

この仕掛けで
混獲率を
「3分の1」に
減らしたんだよ

そんなに!?
すげえ
じゃん!?

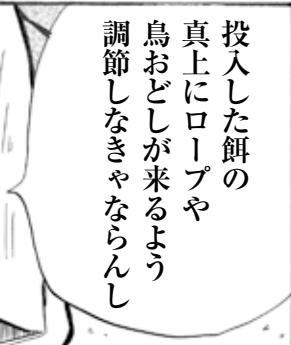


だが
弱点も
あってな



ボールの長さや
風向きによって
鳥おどしの動きが
変わるもんで

俺達が
現場で工夫しなきゃ
効果が上がらないのさ



投入した餌の
真上にロープや
鳥おどしが来るよう
調節しなきゃならんし



なんか、
大変そうだな

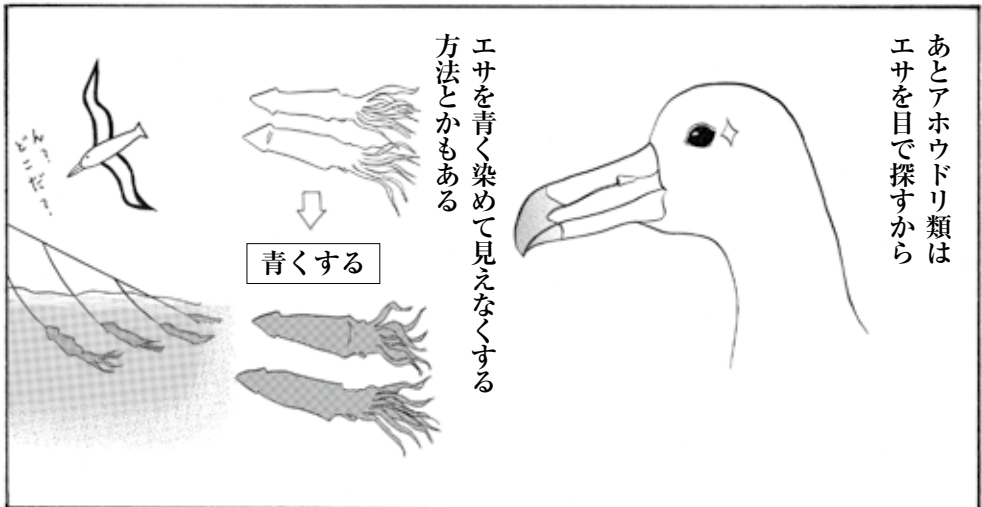
もっと簡単な
方法はないの？



凍ったエサは浮くので

解凍

おう！
他にはな、餌を解凍して
遠く沈める方法つてもあるぞ



ある研究室のメンバー六名が
着色したところ
一週間かかりきりになったし



たくさん魚に色をつけるのは
それだけ費用がかかるってことなんだ



どの仕掛けも
完璧ではないのね

じゃあ、もし
アホウドリ類が
かかったらどうするの？

うん

鳥が生きている時は
針をちゃんと外して
放してあげるんだ

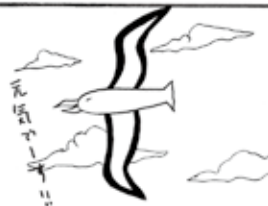
水分や汚れを
できるだけ拭き取る

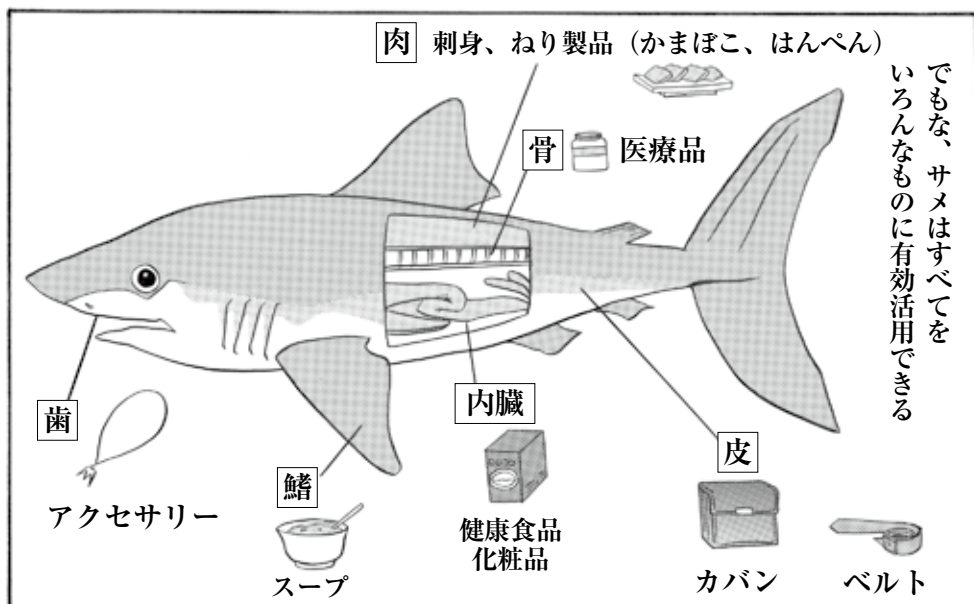
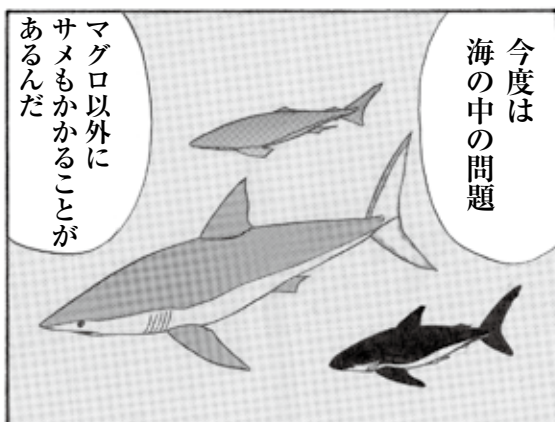
デッキ上で様子を見る

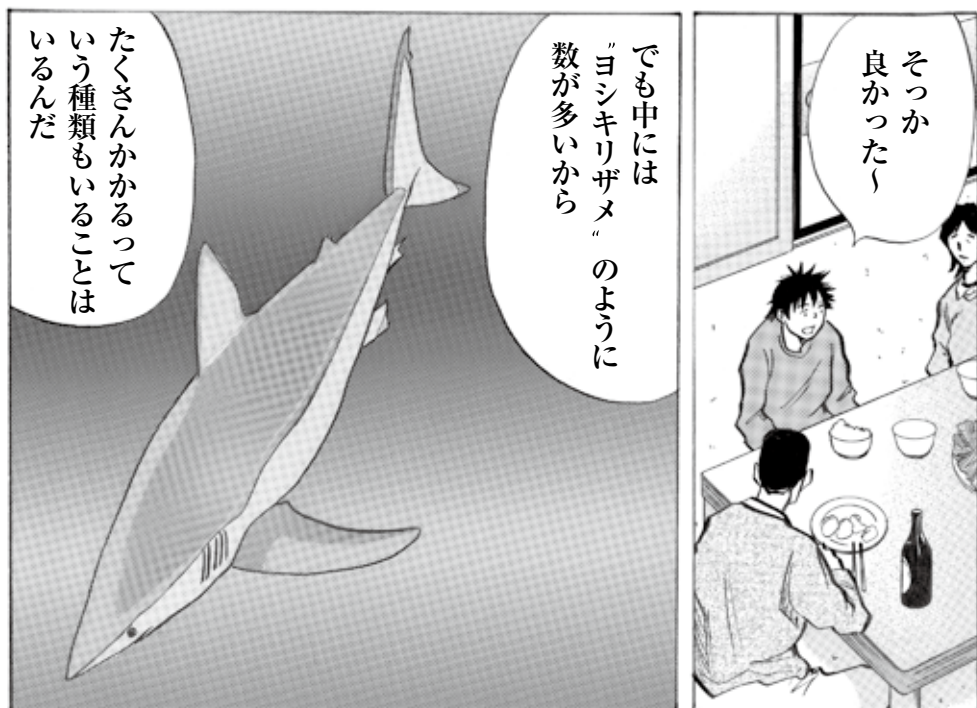
回復したら
海面上に放す

回復しなければ
海に戻す

※この時しっかりと
混獲調査票には
「死亡」として記録する













父ちゃんは
マグロ漁に
誇りを持っている

だからこれからも
混獲の問題には
向き合っていくつもりだ



マグロだけとって
るんじゃないくて
ちゃんと頭も
使ってたんだね



ん？
どういう意味
だ そりゃ？

いや……



今夜は僕も
「仕掛け」のアイディア
一緒に考えるよ

おお、そうか
協力してくれるか!!

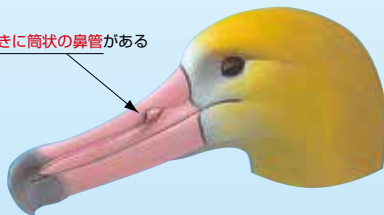
あら、じゃあ
私も

アホウドリ・ミズナギドリの見分け方

アホウドリやミズナギドリは、鼻孔のつきかたで見分けられます

アホウドリ類

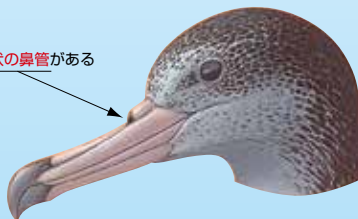
上クチバシの両わきに筒状の鼻管がある



アホウドリ
クロアシアホウドリ
コアホウドリ
など

ミズナギドリ類

上クチバシの上に筒状の鼻管がある



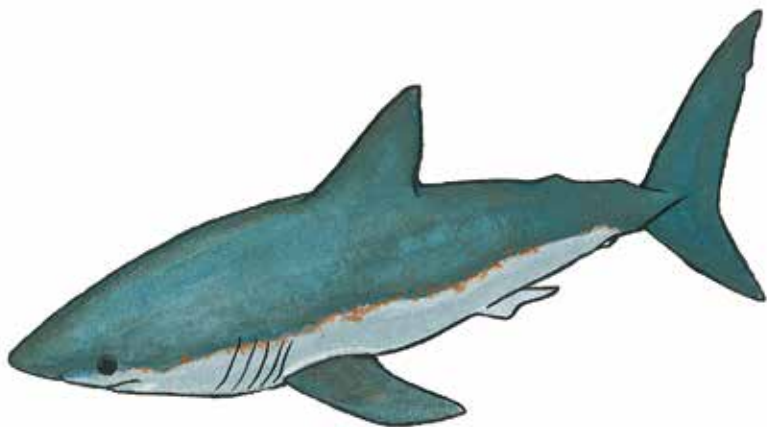
オオミズナギドリ
フルマカモメ
ウミツバメ類
など

その他の海鳥類

上クチバシの両側に穴があいているだけ



カモメ類
カツオドリ類
など



大切にしよう、みんなの地球資源
社団法人 自然資源保全協会

このパンフレットは平成19年度独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の助成を受けて増刷されました。

